

言葉の向こう側を想像する～言葉からイメージするあの戦争～

お茶の水女子大学附属中学校 渡邊光輝

○授業の趣旨

この授業は、「私たちが体験したことのない戦争を、どこまで言葉から想像することができるか」という問いを中心に進める。

広島に投下された原爆を題材にした石垣りんの詩『挨拶』、東京大空襲を語る戦争体験伝承者の語り、そして現在も戦争が続いているウクライナで編まれた聞き書き集『戦争語彙集』を教材として扱う。

経験したことのない出来事に関する言葉と向き合うとき、想像力が問われる。特に、戦争という「想像を絶する」状況を描いたテキストを読み、そこからリアリティーを持ってイメージし、共感的に理解するには、より深い想像力が必要となる。生徒たちと共に、言葉を通してどのように「戦争」のイメージを獲得していくのかを探ることが、この授業の目指すところである。

○授業対象

お茶の水女子大学附属中学校 3年松・蘭・菊・梅組

○単元を貫く問い

- 私達が体験したことのない戦争を、どこまで言葉から想像することができるのだろうか。
- 言葉はどのように想像を引き出すのか、想像を引き出す言葉の力とはどのようなものなのか。

○授業のねらい

	目標(学習指導要領の指導事項)	評価規準	資料
知識・技能	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(読書)	伝承語り講演会、「戦争語彙集」読書会や「戦争語彙集」執筆を通して、自己の生き方や社会のあり方を見つめている。	ふりかえり
思考・判断・表現	「読むこと」において、文章を読んで理解したことを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見を持つことができる。(考えの形成)	文章を読んだり語りを聞いたりして理解した戦争のイメージを、想像力を駆使して広げたり深めたりして、人間、社会などについて自分の意見を持っている。	パフォーマンス課題
学びに向かう力・人間性等(目標)／主体的に学習に取り組む態度(評価基準)	言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	戦争という非日常的な状況下での人々の生活や心情に関心を持ち、想像力を働かせて考えようとしている。 言葉の力や表現の効果について主体的に探究し、自らの表現力を高めようとしている。	ふりかえり

授業の流れ

	内容	詳細
1	石垣りん「挨拶」を読む	※原爆についての詩を読む ①これまでどのような「戦争教材」を学んできたか振り返る。 ②社会科と国語科で「戦争」をテーマに学ぶアプローチの違いは？ ③「挨拶」を読んで、メッセージを想像する
2	戦争体験伝承語りを聴く	※東京大空襲についての語りを聞く ①東京大空襲の語りの「言葉の向こう側」を想像する。 ②戦争体験を伝承していくことについて思いを馳せる。
3	戦争語彙集1	※ウクライナの戦争についての資料を読む ①戦争語彙集について知る。 ②各自で「戦争語彙集」を読み、その「言葉の向こう側」を想像する。 ③各グループで深めたい「語彙」を一つ選ぶ。
4	戦争語彙集2	各グループで選んだ『戦争語彙集』について、想像、考察する→発表
5	戦争語彙集3	Eテレ「戦禍に言葉を編む」を見て、自分たちが想像したことと比較する
6	まとめ	パフォーマンス課題(下記)に取り組む。

配布資料「言葉の向こう側を想像するためには」

言葉の向こう側を想像するためには 言葉からイメージするあの戦争 1 書いた人を想像する ◇ この文章を書いた人はどんな人？職業は？外見は？ ◇ どのような考え方や感じ方をしているだろうか？ 2 場所や環境を想像する ◇ 今、どんな場所にいるのか？ ◇ 周りにはどんな風景や音がある？静か？騒がしい？明るい？暗い？ ◇ その場所ではどんな日常を送っているだろうか？日常がどう変わったのか？ 3 感情を想像する ◇ この文章から、どんな感情が伝わってくる？ ◇ 驚き？悲しみ？恐れ？怒り？あきらめ？孤独？緊張？など ◇ どの表現から、その感情が伝わってくるだろうか？ 4 自分に置き換えて想像する ◇ 同じ状況に置かれたら、自分ならどんな気持ちになる？ ◇ 自分の経験や考えと照らし合わせてみよう。 ◇ もし自分がその場所にいたら、どのように行動するのだろうか？ 5 伝えたいことを想像する ◇ 書いた人は、この文章を通して、何が言いたいのだろうか？ ◇ 書いた人は、この文章をどんな人に読んでほしいのだろうか？ 6 未来を想像する ◇ この文章を書いた人は、どんな願いを持っているのだろうか？ 7 言葉や表現の選び方を想像する ◇ なぜこの言葉や表現を選んだのだろうか？ 例：「ミ」や「星」という言葉が、どんな意味を持っているだろうか？ ◇ 書かれていないことはどんなことだろうか？ ◇ 言葉（表現）の裏に隠されたメッセージや意味は？	
--	--

まとめ課題「言葉からイメージする戦争」

A. 評論文を書く(テーマ:「想像力の役割とは?」)

石垣りんの詩や戦争体験伝承語り、戦争語彙集の学習から印象に残ったことを取り上げ、戦争を知らない私達がどのようにして戦争を想像していったか述べるとともに、想像力はどのように私達の認識や社会を変えることができるか、想像力の役割や価値について論述します。

課題のポイント:

1. 具体的な学びの引用: 詩や戦争語彙集などの内容を引用し、戦争を知らない世代が想像力を通じて捉えたことを考察します。
2. 想像力の役割を深める: 想像力がどのように戦争の理解や平和構築に役立つか、自分の考えを広げ深めていきます。
3. 考えの形成: 人間や社会についての自分の意見を持ち、それを文章としてまとめます。

B. お手紙を書く(テーマ:「『戦争語彙集』で〇〇を書いた〇〇さんへ」)

戦争語彙集を学んだ後、その言葉のエピソードを書いた人や、置かれた状況を想像して手紙を書きます。その中で、戦争を知らない私たちが感じたこと、想像したこと、伝えたい思いを述べます。また、相手の立場に寄り添い、彼らの経験や苦しみをどう受け止め、平和への希望を共有するかを表現します。手紙を書くことで、戦争をめぐる人間の思いや社会の問題についての理解を深めます。(在日ウクライナ大使館に送ります。言葉が届くといいですね)

課題のポイント:

1. 戦争語彙集から感じ取ったことを書く: 文章から受け取った想像を具体的に表現します。
2. 状況を想像し、共感する: 書いた人の背景や立場を想像し、深い共感を持って手紙をつづります。
3. 考えの形成: 戦争の影響や平和についての自分の意見を持ち、それを手紙に反映させます。

C. 詩を書く(テーマ:「石垣りん『挨拶』に答える詩を書く」)

石垣りんの詩「挨拶」に触れ、それに応答する形で、400字以上の詩を作成します。

「挨拶」に込められた思いについて考え、想像力を広げます。自分の言葉で今を生きる私達の姿を振り返っていきます。

課題のポイント:

1. 「挨拶」に答える: 詩の内容を受け止め、自分なりにそのメッセージに応答する形で詩を作成します。
2. 想像力を駆使する: 詩の中で、読み手の想像力や感情を掻き立てる表現を工夫します。
3. 考えの形成: 詩を通じて、人間や社会についての自分の考えを詩的に表現します。

D. 論述文を書く(テーマ:「戦争体験を伝えていくために」)

戦争体験伝承語りや、社会科で夏休みに取り組んだ戦争体験聞き取りでの学びを踏まえて、戦争の記憶をどのようにあなたが次世代に伝えていくか考え、400字以上の論述文を書いてください。

具体的な戦争体験や学んだことを引用しつつ、それを伝える具体的な方法を提案します。(すぐに実行できなくても構いません。大人になってからでもいいです)あなたが学んだ戦争体験を伝えていく意義や、平和のためにできることを論じ、戦争や平和についての自分の意見を深めます。

課題のポイント:

1. 具体的な戦争体験の引用:あなたが聞いた戦争体験や学んだ内容を引用し、それをどのように伝えるべきかを考えます。
2. 伝えるための方法を提案:将来、他の人に何を、どのように戦争体験を伝えていきたいか、具体的な提案をします。
3. 考えの形成:戦争や平和に対する自分の意見を深め、それを論述文としてまとめます。

まとめ課題ルーブリック(ABCD共通)

授業の目標(評価規準):「文章を読んだり語りを聞いたりして理解したことを、想像力を駆使して広げたり深めたりして、人間、社会などについて自分の意見を持つことができる」(考えの形成)

評価項目	S (秀でている)	A (優れている)	B (達成している)	C (改善が必要)
引用	学んだ資料や体験からの引用を効果的に使い、引用内容を深く解釈し、自分の意見や感情を強くサポートしている	適切な引用を使い、自分の意見や感情を支えており、引用部分の解釈も明確に示している	引用を使い、自分の意見や感情を支えている。	引用が不十分で、学んだ内容が活かされていない
想像力	想像力を豊かに発揮し、新たな視点や深い気づきを示し、読み手に思いやテーマを印象的に伝えている	想像力を活用し、内容に深みや具体性を持たせ、自分の視点や感情を表現している	想像力を発揮して、視点や感情を表現している。	想像力があまり発揮されてなく、情報の抜き出しにとどまっている
文章構成 表現	文章構成にスムーズな流れがあり、豊かな表現で読者を魅力的に引き込んでいる。テーマや感情が一貫して伝わっている	明確な構成と表現力があり、テーマや感情を伝えることができる	テーマや感情を明確に伝えている	構成や表現に不十分な点が見られ、読者に十分に意図が伝わっていない